

さいづかく

埼玉県吹奏楽連盟会報

2022.04 No.26

主な内容

各支部より
大会を振り返って
令和3年度優秀指揮者表彰



『令和3年度を振り返って』

埼玉県吹奏楽連盟 会長 小熊 利明

満開の桜のもと、令和4年度が始まりました。皆様方におかれましては、益々ご活躍のことと拝察いたします。

さて、昨年度の年度当初は、コロナ禍の中、入学式から始まり、感染防止の徹底を図りながら、授業や部活動を展開しておりました。一昨年度の入学式が大幅に遅れたことを鑑みれば、1学期としての教育活動がスタートできた喜びを噛みしめておりました。このような中でしたが、忘れもしない、6月の各地区の吹奏楽研究発表会を直前に中止せざるを得ない状況となりました。各地区の支部長さんを中心に、会場、各学校・団体、各業者の方々等へのご対応、そして、顧問・代表の皆様には、生徒・保護者、団員、教職員の皆様へのご対応をいただきました。改めて感謝申し上げます。その後、本当に短い間でしたが、理事の皆様方を中心に、感染防止策を練り上げ、夏のコンクールを実施できたのは、参加する生徒・団員の皆様、そして、当連盟にとっても、ウィズコロナ、ポストコロナの時代において、今後どのような活動が望まれるのかについて、深く思いを巡らす機会となったと思います。

当連盟の皆様方は、吹奏楽の魅力をよくご存じのことと思います。この吹奏楽の魅力を次代を担う子どもたち、また、より多くの方々と共有できるよう、ウィズコロナ、ポストコロナの時代に生きて働く様々な知恵を、今後とも皆様とともに獲得し続けるとともに、吹奏楽の魅力を一層追求する姿勢を諦めることなく持ち続けていきたいと考えます。

会長・理事長 挨拶



『令和3年度を振り返って』

埼玉県吹奏楽連盟 理事長 奥 章

令和2年度を席巻した「コロナ」の嵐は、令和3年度になっても衰えを見せず、それどころか姿形を変えながら世界各地にますます猛威を振るいました。そのような中で埼玉県吹奏楽連盟は、これら諸問題に立ち向かい、児童生徒や先生方、団員の皆様の熱い情熱と叡智を結集して、令和2年度には開催できなかった吹奏楽コンクール、マーチングフェスティバル、小学生バンドフェスティバル、アンサンブルコンテストという、連盟の生命線とも言える大会を開催することが出来ました。この開催にあたりましてご努力頂きました県連盟役員や支部役員の皆様はもとより、ご協力頂きました会員団体の皆様、その他関係各所各位に心から感謝を申し上げます。さて、令和3年度はある意味我々の「覚悟」を問われた1年であったと言えます。コロナ禍の中でどのようにすれば日常のような活動が出来るのか。感染状況を鑑みて、行政の指示を仰ぎながら、「withコロナ」という掛け声の中で見えない敵と戦い、知恵を振り絞ってきました。それでも上記の大会は開催されましたが、見送られた事業も数多くあります。まだまだ「覚悟」が足りなかったと言えます。もちろん「覚悟」など、闇雲にするものではありません。それは単なる無謀です。「覚悟」を決めるにはそれなりの根拠が必要です。根拠を求めると言うことは情報に敏くなければなりません。「危険なこと、不利なこと、困難なことを予想して、それを受けとめる心構えをすること。」が覚悟だとすれば、次年度こそは吹奏楽の日常を取り戻すことを目指して、「覚悟」を決めて臨みたいと思います。

各支部より活動報告

東部支部の活動報告

令和3年度の支部行事はコンクールとアンサンブル・コンテスト以外はコロナ対策としてすべて中止となってしまいました。

6月の東部地区吹奏楽研究発表会は、埼玉県教育委員会による直前の決定により3日前に中止となりました。また、前期、後期楽器別講習会、指導者研修会の中止、2月のバンドセッション2022は企画内容を変更し、東部支部吹奏楽演奏会として実施を検討しましたが、結局中止となりました。

コンクール、アンサンブル・コンテストが実施できたことだけでもせめて

もの救いでしたが、このコロナによって東部支部の吹奏楽部全体が縮小、衰退傾向にあるのは紛れもない事実です。実際、東部地区吹奏楽研究発表会の参加登録人数は、一昨年度実施した際の人数から1,000人減少していました。また、東部地区吹奏楽演奏会で参加申込をしてくれた団体の8割が20人程の部員数でした。

今後、吹奏楽連盟としてこのような現状にどのように対応していくのか、全県を上げて研究協議し行動を開始すべきであると痛感しております。この令和3年度が、今後につながる大きな節目の年であったと感じています。

東部支部長 金子 和明

西部支部の活動報告

令和3年度(2021年度)は、コロナ禍における活動のあり方を考える1年になりました。コンクールも、客席に保護者の方を迎え、自団体を含めて数団体を聞いて頂く形で開催できました。西部支部からは中学Bで4団体、中学Aで3団体が西関東大会に出場。その中で飯能市立加治中学校が20年ぶりに全国大会に出場を果たしました。高校Aでは秋草学園高が西関東大会銀賞、高校Bでは県立滑川総合高等学校が東日本大会で金賞を受賞しました。

アンサンブルコンテスト地区大会は、運営上の負担を考慮して無観客での実施となりましたが、西部支部からは中学157チームが出場。県大会に進んだ21チーム中、7チームが山梨で行われた西関東大会に進み、2チームが金賞を受賞しました。また、高校では星野高等学校の金管8重奏が山形で行われた全日本アンサンブルコンテストに初出場を果たし、銀賞を受賞しました。

一方で、6月に予定されていた研究発表会は全県で2年連続中止。大勢のお客さんの前で緊張しながら演奏し、拍手をもらうこと。他団体の演奏を聴いて刺激を受けること。今まで当たり前だった事を、今年度こそは多くの部員達に経験して欲しいと思います。

◆ 西部支部コンクール(中学)

	中A			中B			中C	中D		
出場団体数	27+ シード 1			67			1	11		
入賞	金	銀	銅	金	銀	銅	優秀	優秀	優良	
地区大会	¹⁰ ₍₆₊₁₎	9	8	¹⁰ ₍₁₀₎	13	11	1	4	3	
県大会	3(3)	0	4	4(4)	2	4				
西関東	2(1)	1			3	1				

◆ アンサンブルコンテスト

	中学			高校		
出場団体数	157			53		
入賞	金	銀	銅	金	銀	銅
地区大会	27(21)	31	23	9	7	9
県大会	11(7)	6	4	2(1)	4	3
西関東	2	5		1(1)		

西部支部長 本田 雅彦

中央支部の活動報告

令和3年度は、前年度に引き続き学校現場はコロナ禍に見舞われました。分散登校、オンライン授業、学校行事中止、部活動自粛などの措置により各学校は対応に追われ、その中でいかに生徒の成長につなげる活動ができるか模索しながら工夫して取り組んだ1年となった。その中でもコンクールとアンサンブルコンテストの2種目の大会は2年ぶりに実施することができた。無観客での実施だったため、会場は閑散とした状況ではあったが、タイムスケジュールに余裕を持たせたことにより転換もスムーズ

に行うことができ、補助役員生徒がいない状況の中、先生方の積極的な協力により問題なく実施できた。また、審査員からは時間に余裕ができたことで落ち着いて講評を書くことができたことと好意的な感想をいただいた。

コンクール参加団体数			アンサンブルコンテスト 参加団体数
Aの部	Bの部	Cの部	
27団体	28団体	15団体	

中央支部長 金井 良弘

南部支部の活動報告

南部支部は、令和3年度南部支部総会において、千葉県・柏市立酒井根中学校の板垣優麻氏をお迎えし、「時間短縮の中での効率的な練習」についてのご講演をいただきました。支部事業においては、地区吹奏楽コンクール、地区アンサンブルコンテストを除き、新型コロナウイルス感染防止のため、やむを得ず中止の判断をさせていただきました。特に南部支部吹奏楽研究発表会では、直前の中止となり多方面にご迷惑をおかけいたしました。子どもたちの気持ちを考えると、本当に胸が痛い思いです。努力の成果が当たり前のように発表できるようになる日が1日も早く来ることを願ってやみません。

さて、各種大会では、南部支部から選出された団体が大きく活躍いたしました。吹奏楽コンクールでは、Aの部において朝霞市立朝霞第一中学

校が3大会連続となる全日本吹奏楽コンクールに出場し銀賞を受賞、Bの部においては、東日本学校吹奏楽大会において志木市立志木第二中学校(3大会連続出場)、川口市立芝中学校、立教新座高等学校が金賞を受賞いたしました。また、アンサンブルコンテストでは、朝霞市立朝霞第一中学校サクソフォン四重奏、志木市立志木中学校打楽器六重奏が山形市で行われた全日本アンサンブルコンテストに出場し、銀賞を受賞いたしました。

各種大会では何とか開催をすることができましたが、中止となってしまった事業においてもコロナ禍が続く中で、感染対策をしながらどのように子どもたちの演奏機会を確保していくかが大きな課題となります。令和4年度では、この課題を模索しながら、少しでも発表の機会や学ぶ機会を確保できるよう努めて参りたいと考えております。

南部支部長 外崎 三吉

北部支部の活動報告

吹奏楽にとっては、相変わらずコロナに振り回された昨年度でしたが、20年度は中止となった夏のコンクール・秋のアンサンブルコンテスト・マーチングコンテストが、制限はあったものの開催できたこと、本当に感謝でした。こうしたコンクールへの取り組みを、吹奏楽活動の中心として設定されている学校も多く、何より日々練習を積み重ねてくれた生徒たちにとって、その成果を発表・表現できたのはとても喜ばしいことでした。

北部支部事業としても、20年度中止となった楽器別講習会を開催校のご協力で開催することができましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

ですが、まだまだコロナとの付き合いは続いていきます。多くの制限の中、ひたむきに音楽活動に取り組んでくれる生徒たちを守りつつ、保護者をはじめとする関係者と協力しながら、活動の場を確保・充実させていくことが、20・21年度の反省と経験を味わった私たち指導者の役割だと思っています。

北部支部でも、校種や地域を越えたつながりを深め、まずは昨年度中止となった吹奏楽研究発表会を、充実したステージにできるよう準備と対応を進めていきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

北部支部長 中澤 弘文

大学・職場・一般支部の活動報告

コロナ禍の2年を振り返り、スクールバンドも大変だったと思いますが、全部門の中で大学生の活動が全国的にも一番厳しい状況が続いています。

数年前から県内の大学生からも相談を受けており、約10年前の吹コンA部門には5～6団体が出場していたと思いますが、既にコロナ前の5年位前には文教大学と埼玉大学の2団体にまで減り、コロナ禍で文教大学は1年以上も大学側から活動の許可が出なかった為、昨年の吹コン

はA・D部門共に不参加となりました。結果的に吹コンはA部門に埼玉大学1団体のみの出場となってしまいました。

コロナ禍が長期化する中、当支部としては、中学・高等学校の先生方の協力を得て、卒業生が県内の大学へ進学した場合は、是非、吹奏楽部に所属して各大学を盛り上げて頂けるよう協力体制を整えて行きたいと考えています。

当支部の活動維持にご理解ご協力をお願いします。

大学・職場・一般支部長 越川 博

大会を振り返って

第69回 全日本吹奏楽コンクール

名古屋国際会議場 センチュリーホール	レグザムホール(香川県県民ホール)
2021年 10月23日 中学校の部	2021年 10月30日 大学の部
2021年 10月24日 高等学校の部	2021年 10月31日 職場・一般の部

飯能市立加治中学校 落合 誠

10月22日(金)午前5時、沢山の方に見送られ2台のバスは加治中を出発した。最初の目的地はもちろん昼飯、メニュー豊富な岡崎SAで名古屋めしを愉しんだ。午後は、碧南市での練習だ。見知らぬ土地で初めて利用するホールはワクワクする。遠征の喜びを実感できるのだ。練習が終わると「中部国際空港セントレア」で夕食を済ませた。ホテルに向かう途中、バスからの眺めで奇跡が起きた。セントレア大橋を渡る途中、月の光で伊勢湾にムーンロードが浮かんでいたのだ。まさに我々の自由曲「月下に浮かぶひとすじの道標」の光景だった。誰かが言った「私たちもってんじゃね?」その後、バスは渋滞に巻き込まれながら市内のホテルに到着した。

10月23日(土)上越の大会から丁度1ヶ月後、我々にとってのサブス

ローガン「名古屋に響け2年分の想い」を実現する日だ。しかし、1番怖いのは誰かの発熱(コロナ対策)である。結果として全員が健康、この瞬間やっと名古屋に響かせることが現実となりそうになった。

夢舞台に到着すると、早速“白い騎馬像”の前に部員たちが並ぶ。周囲には沢山の保護者、ちょっと信じられない。こういうのが“やばい”って言う。17時16分、この夏4回目の「龍潭譚」と「月下」を名古屋国際会議場で響かせた。西関東より熟成され完成された演奏だった。演奏後、たくさんの部員が感動で泣いていた。日本の頂点の場で本当に演奏できた喜び、そしてこのチームの解散、3年生とお別れになる寂しさ、言葉にならない感情だった。結果は銅賞だったが、2021年の夏は“特別な夏”となった。

越谷市立大相模中学校 田中 秀和

大相模中学校は、全日本吹奏楽コンクールに出場することができましたが、今回の道のりは最も大変で厳しいものでした。それは、もちろんコロナ禍で蔓延防止となり、活動の制限がかかったこともですが、これはどの学校にも当てはまり、同じ条件での活動でした。しかし、本校はこれに加え外壁の工事があり、夏休み中の校舎内での活動が全面禁止となってしまいました。これにより体育館、地域の公民館や小学校を借りての練習を余儀なくされました。

吹奏楽は場所だけでなく、楽器の運搬が大きな問題となります。感染防止対策を行いながら、気温が35度を超える体育館での練習やさらに連続して借りることができなければ、その都度トラックでの移動となり、その労力と費用が大きいのしかったです。それでも生徒たちは、大きな目標に向けて頑

張って練習に取り組んでいきました。学校からの援助や保護者の方々の協力や理解があって夏休みを何とか乗り越えることができました。

しかし西関東大会に向けて準備をしていると、出発直前での会場の使用不可の連絡と遠征の中止、そして会場の変更で生徒たちの気持ちもジェットコースターのようになり、とても不安定でした。顧問としても、スケジュールの組み直しと気持ちの切り替えが難しかったです。そのため、今年の全国大会出場が決まったときには、とても嬉しい気持ちと安堵感に包まれました。

生徒たちもこの経験を乗り越え、名古屋のステージに立てたことが大きな喜びと経験に なったと思います。そして多くの方々の援助や協力、応援の有り難さが身にしみる年となりました。

朝霞市立朝霞第一中学校 部長 伊藤 直輝



僕はずっと目標にしてきた全日本吹奏楽コンクールに出場して、この仲間たちとこの舞台に立ててとてもうれしく、ここまで必死に頑張ってきて本当に良かったと思いました。

昨年度、新型コロナウイルスの影響でコンクールができなくなってしまった先輩方の姿を僕たちは見てきました。そして今年度、吹奏楽コンクールが無事開催されることになりました。一部制限もあり、演奏の機会も例年よりも少ない状況でしたが、時間を有効に使って、仲間と協力しながら練習に臨みました。楽しいことばかりではなく、辛いこと、苦しいこともありましたが、それでもあきらめずに練習をしてきました。僕は、全国大会のステージの上で演奏していて、これまでの努力が報われたような気がしました。僕はステージからのあの景色は一生忘れません。

全日本吹奏楽コンクールに出場したことは僕にとって仲間との努力の結晶であり、一生の思い出です。

春日部共栄高等学校 織戸 祥子

2021年のコンクールは、2020年に思うような活動ができず、貯めに貯めていたエネルギーを爆発させたいというウズウズした気持ちと、生徒の誰も経験した事がない全国大会までの道のり(2019年の全国大会には当時1年生だった部員は誰も出場していません)への不安な気持ち、先輩たちの思いを受け継ぐ使命感など、これまでのコンクールでは味わったことのない気持ちが入り混じったコンクールでした。

「繋ぐ～最大の努力で最高の名演を」という目標を掲げ挑んだ全国大会のステージでは、2年分の思いを音と音楽に乗せて精一杯演奏してまいりました。また、全員が1年で1番ありがとうを言った日かもしれません。

インターネット上で出た結果の“銀賞”の文字は何度も見ても“金賞”には変わらず、全国大会金賞の夢はまた次の代へと受け継がれました。

埼玉栄高等学校 奥 章

前年は出たくとも出ることさえ出来なかったコンクールに、2年ぶりに挑むこととなった。

学校行事でも良くあることだが、1年あいだが空くと言うことは大変恐ろしいことで、下手をするとそのことを経験した生徒が全くいない、などということがある。吹奏楽コンクールもまた同じである。

以前は「3出制度」というものがあり、強制的にコンクールに出場できないことがあった。この強制的な「1回休み」が入ると、その翌年は体制を立て直すのが容易ではなかった。コンクールというものの独特な、研ぎ澄まされた、緊張の極致という瞬間(ステージだけではなく)を、以前に味わった者が多ければ多いほどチームとしての安定感は増してくる。「経験」という財産はお金では買えない。

この「3出制度」の中でも「毎日の部活動」は出来た。しかし、今私たちはその「日々の活動」という財産さえも持っていなかった。

3年生が皆口々に言っていたが、「当たり前と思っていた日常の有り難さに、今更ながらに気がつかされた」1年間であったと思う。とにかく空白を埋めることに全力を尽くした。経験のなさは努力で埋めるしかなかった。その努力で積み上げたものも「コロナ」という一言の前にあっという間に崩されてしまうことがある。賽の河原の石積みのようにだと思ったこともある。

全国というステージまでたどり着くことが出来たのは、生徒の努力は当然のことながら、何よりも生徒の周りにいた保護者を含めた大人の努力も見逃せないだろう。感染者が出れば大会には出られないし、成立もしない。そんな単純な、しかし困難なことを生徒のために成し遂げてくれた皆さんに、心から感謝を申し上げたい。



県立伊奈学園総合高等学校 関根 美羽

伊奈学園のサウンドをつくるため、先輩方のような演奏をするため、先輩たち以上に努力しなければならない状況下で練習時間が削られていく毎日でした。もっともっと練習したいのに、練習時間の制限がかかり、自分たちは成長出来ているのだろうかと不安になり、焦ってしまうこともありました。しかし、いつも前向きな言葉で私たちを励まし、信じ、導いてくださった宇畑先生、そして、毎日家族よりも長い時間を共に過ごした大好きな仲間のおかげで、最後まで諦めず努力し続けることが出来ました。本番は緊張やプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、心強い仲間の顔を見ると自然と安心でき、今までの努力を信じ、思い切り全国大会という舞台を満喫することができました。中学生の頃から夢見た憧れの舞台で演奏することができて本当に幸せでした。一緒に音楽した仲間、支えてくださった全ての人に感謝しています。



川越奏和奏友会吹奏楽団 木本 敏行

川越奏和奏友会吹奏楽団は第69回全日本吹奏楽コンクール職場・一般前半の部において通算15回目の金賞を受賞いたしました。コロナ禍という吹奏楽にとっては過酷な環境の中で活動を継続し、団員一人一人の音楽を愛する気持ちが形となった瞬間だったと思います。

自由曲で演奏したP.ヒンデミットの交響曲「画家マティス」。指揮者である佐藤正人氏の2021年の新アレンジで日本吹奏楽会の恩人秋山紀夫さんのリクエストにより生まれました。

曲終盤の金管楽器群によるアレレヤは、まさにこの環境下でも音楽を奏でることができる幸せを象徴するようなシーンでステージの上での感動は今でも鮮明に残っています。曲もアレンジも素晴らしいので是非、皆さんにも演奏していただきたい1曲です。

これからも川越奏和奏友会吹奏楽団は埼玉県吹奏楽の発展のため微力を尽くしたいと思います。変わらぬご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団 海津 裕子

私たち川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団は第69回全日本吹奏楽コンクールに出場致しました。

課題曲はV、自由曲は長生淳先生に創団40周年記念で委嘱した「時に愛はいと甘し」を演奏致しました。どのパートも音数が多く、聴いてくださる方に曲の良さをどう伝えられるかを常任指揮者の福本信太郎先生と共に取り組んでいました。

コロナ禍で二年ぶりの全日本の舞台、そして有観客での開催と心地よい緊張感の中、練習の成果を出すべく楽しく演奏に集中できました。表彰式がないため団員それぞれが結果を知ることになりましたが、20回目の金賞を頂き一緒にいるメンバーと喜びを分かち合いました。コロナ禍でのコンクールの出場に関しては団員一人一人の努力だけでは実現出来ませんでした。

私たちが練習会場としている川口市十二月田中学校の理解を得、時間には制限があるなかでも継続的に練習をさせて頂けたことは一般バンドの練習会場の厳しい状況の中本当に有難いことでした。そして各メンバーの家族からの理解と協力がなければコロナ禍で、楽器を吹くことも出来なかったと思います。その感謝の気持ちも全日本のステージで表せたのではないかと考えております。

全日本でのステージの感動を忘れずにこれからの演奏活動もメンバー一同精一杯取り組んでいきたいと思っています。

大会を振り返って 第21回 東日本吹奏楽大会

札幌コンサートホール Kitara 大ホール

2021年 10月9日 中学校の部

2021年 10月10日 小学校の部 高等学校の部



さいたま市立大宮南小学校 大谷 春花

東日本大会は北海道での開催となり、たくさんの皆様からのご支援をいただいで実現した北海道遠征でした。コロナウイルスの影響で本当に行けるのか、莫大な遠征費用が準備できるのかなど不安な日々でしたが、そんな時、卒業生や保護者の皆様から「南小サウンドを響かせてきてください」「Kitaraのホールでの演奏、応援しています」「コロナに負けずに頑張ってください」など温かい励ましの言葉をたくさんいただき、本当に何度も助けられました。

また、子どもたちは良い演奏ができるようにとてもよく協力して行動してくれました。そんな子どもたちの素敵な行動の積み重ねもあり、本番の演奏も大変満足のいく演奏になりました。札幌コンサートホールKitaraは、とても心地の良い響きのホールでこれまで練習してきたことを全て出し切ることができました。

東日本大会を通してたくさんの応援をいただきましたお陰で、子どもたちにとって一生思い出に残りたいへん貴重な経験をさせていただきました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、南小サウンドを響かせていきたいと思っています。

越谷市立西方小学校 友田 紀子

今年はコンクールが開催される!まずそのことが私たちににとって最大の喜びでした。「北海道に行くぞ!」を合言葉に練習を始めたのは4月。この頃はまだ、本当に行くとは誰も思っていませんでした。練習時間や方法に制限がある中、度重なる部活動の停止。ホール練習は1度もできず、サウナ状態の体育館で心も体も鍛えられた夏でした。西関東大会は、残念ながら1名欠場。2日前に急速パートを入れ替え、バランスを作り直しました。メンバー全員の思いが「本当に行けるのかな」から「何としてでも代表を掴み取り、全員で北海道に行く!」に変わった9月。自分の音に責任をもつこと、団結力、仲間への思いやりを学びました。Kitaraホールの舞台上に立った瞬間、メンバー全員で演奏できることの嬉しさ、昨年度の悔しさ、ここに来るまでに支えてくださった方々への感謝の気持ちが込み上げてきました。東日本学校吹奏楽大会という舞台で演奏できたことはもちろん、みんなで飛行機に乗ったこと、夜景を見たこと、お泊りしたこと、展望台から大通り公園を見たことなどが、私たちににとって一生の宝となる最高の思い出です。応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

志木市立志木第二中学校 鈴木 直樹

第21回東日本学校吹奏楽大会は、10月9日に北海道の札幌コンサートホールKitaraで開催された。前日の10月8日から札幌に移動し練習を行ったが、10月7日の夜におきた地震の影響で羽田空港までの高速道路が大渋滞していて、出発の15分前にやっと到着した。飛行機に搭乗し座席についたのが出発3分前だった。運が良いと思えずそこですべての運を使い果たしてしまったかのように思えた。

札幌はとても良い天気で清々しく、コロナ過であることを忘れさせるようだった。大会当日は、早朝5時からの練習で、全員で見た日の出はとても美しくエネルギーをいただけた。

会場の札幌コンサートホールKitaraは中島公園内にあり緑豊かな自然が隣り合わせになっており、札幌交響楽団が本拠地になっているホールである。楽屋口から入り、館内は美しく広々としていてとても素晴らしい施設であった。ホールの響きも大変素晴らしく、生徒たちは、良い意味で緊張感があり、多少のミスはあったがいつも通りの演奏をすることができ、満足しているようであった。残念だったのは、客席で演奏を聴くことができず、演奏後の集合写真や表彰式がなかったことである。

吉川市立南中学校 山川 太郎

初出場した東日本大会で演奏した「ディベルティメント」は22名でも演奏することができるように、講師の先生がアレンジしてくださったものです。この曲を通して部員全員が意識したのが「音色」と「表現」でした。

「音色」ではメンバーそれぞれが理想の音を見つけ、その音に少しでも近づけるように努力しました。日頃の基礎練習で自分の反省点を見つけ、改善することの重要性に気付きました。「表現」では聴いている方に届くよう、奏者が思っている以上に、大げさに表現することを意識しました。そして心に響く音楽を目指しました。

東日本大会までの道のりの中で、多くの人に支えていただいていることを実感しました。そのことへの感謝を忘れずに、これからも様々なステージでベストの演奏をしていきたいと思っています。



演奏後すぐに会場をあとにし、観光へと向かった。結果発表はバスの中で行われ、念願の金賞を受賞することができ、生徒たちは、歓喜にあふれていた。翌日も観光をし、充実した3日間を過ごすことができ、思い出に残る大会となった。



川口市立芝中学校 星野 清悟

10月9日、札幌市は雲一つない秋晴れの青空が広がり、さわやかな風が心地よく感じられる絶好の天候のなか、第21回東日本学校吹奏楽大会に芝中学校吹奏楽部は参加しました。

前日の金曜日は早朝の5時45分に蕨駅に集合して出発する予定でしたが、夜に起きた地震の影響で電車が動かず、ホームで1時間以上待たされ、やっと来た電車にぎゅうぎゅうの状態で乗り込み羽田空港へ向かいました。札幌に着いて、昼食をかねて羊ヶ丘展望台へ行き、北海道の広大な景色と羊たちを見て、ついに北海道へ来た!と生徒達も興奮していましたが、その日の練習はさすがに旅の疲れからか、演奏もあまりいい状態ではありませんでした。しかしい、その夜ぐっすり寝て、ホテルの朝食をたっぷり食べたおかげか、

さいたま市立泰平中学校 川勾ひより

私たち、さいたま市立泰平中学校吹奏楽部は基礎を大事にし、みんなで息を合わせて演奏することを心がけて活動してきました。私たちが、東日本学校吹奏楽大会に出場するまでには新型コロナウイルスの影響で部活動の練習時間が短縮されたり、思うように活動ができなかったりという困難がありました。しかし、2年生の頃に夏のコンクールが中止になってしまって悔しい思いをした先輩方の分まで一生懸命演奏するぞという気持ちで地区大会から精一杯演奏をしてきました。北海道で行われた東日本大会では組曲「虫」を演奏しました。そこで金賞をいただくことができてとてもうれしかったです。このような賞をいただけたのも部活動指導員の先生を始め、たくさんの先生方や保護者・地域の方々のご指

県立滑川総合高等学校 坂本 尚也

昨年度、本校吹奏楽部は札幌コンサートホールKitaraで行われた「第21回東日本学校吹奏楽大会」に出場し、創部以来初となる金賞の栄誉にあずかりました。開催地の北海道には前日入りましたが、この時点では3年生二人が入試のため不在。さらに慣れない飛行機移動で数名が体調不良となっていました。しかし、何とか本番当日には持ち直し、全員でステージに臨むことができたのは本当に幸運という他ありません。そうして迎えた本番を終えた部員たちの表情からは「やり切った」充足感が見て取れました。心残りがあるとすれば、他校の演奏を聞く機会が全くなかったことでしょうか。同じ時、同じ空間で音楽を共有できる「あたりまえ」の日常が戻ってくることを願ってやみません。末筆ではございますが、コンクールの開催にご尽力くださった全ての方々に感謝申し上げます。



当日の午前中練習はとても集中した練習ができ、これならという思いで会場であるキタラホールへ向かいました。会場では北海道吹奏楽連盟の役員の先生方や高校生が、大変温かく迎えてくれてこの大会を素晴らしいものにしたいという気持ちが伝わってきて感激しました。生徒たちは広いホールに驚いたようですが、これまでの練習の成果を発揮して素晴らしい演奏をしました。空港へ向かうバスの中で、金賞とわかり生徒たちとこれ以上ない喜びを味わうことができましたが、これも様々な場面で支えていただいた多くの方々があってこそ受賞だと思います。この場をお借りしてになりますが、大変ありがとうございました。



導、ご声援があったからです。本当にありがとうございました。この経験を活かしてこれからも頑張りたいと思っています。

立教新座高等学校 植松 想

本校吹奏楽部は、夏に行われた吹奏楽コンクールで地区大会・県大会・西関東大会を経て、北海道で行われた第21回東日本学校吹奏楽大会高等学校部門に創部初の出場、そして金賞を受賞しました。まず、新型コロナウイルスの感染状況がまだまだ落ち着かない中で大会の準備をしてくださった吹奏楽連盟の方々や関係者の皆様に感謝致します。ありがとうございました。遠征先である北海道の現地の方々にも温かく迎え入れて頂き、安心して大会に参加することができました。18人という少人数で演奏だけでなく運搬その他にも多くの課題がありましたが、部員たちは一人一人が「自分達のバンド」をどうしたいのかを考え、音楽に向かい、互いに成長を重ねていきました。ここまで一緒に演奏してくれた先輩方や仲間へ感謝し、4月からの新しいチームでも自分たちなりの個性を発揮できればと思います。最後になりましたが、埼玉県吹奏楽連盟や吹奏楽に関わる皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます



県立伊奈学園総合高等学校 佐川 陽菜

大阪城ホールに私たちの大きな花を咲かせたいという夢を掲げ、81人の仲間が集いました。みんなで励まし合ってこなした真夏の体育館練習、納得いくまで何度もやったパート練習、スキマ時間を探して取り組んだ個人練習など、みんなで何をしたらいいか考えながら練習をしてきました。地道な練習の毎日で前に進めているか分からなくなってしまい、気持ちが落ちてしまうこともありましたが、前向きな言葉を掛けてくれたみんなや熱心な指導をしてくださった宇畑先生のおかげで挫けずにいられました。むかえた本番はもちろん緊張もありましたが、それ以上の今までの自信とみんながいれば大丈夫という安心感があり、私たちだけの大きな花を咲かせることができました。あの日全員で叶えた夢の景色は一生忘れられません。



大会を振り返って

第45回 全日本アンサンブルコンテスト

朝霞市立朝霞第一中学校 3年 三原 奏愛

この度、全国大会へ出場させていただきましたが、舞台に立つまでの道のりは簡単なものではありませんでした。コロナ禍の制限がある中では、部活動自体難しく、アンサンブルの練習をどう取り組めばよいのか不安でした。顧問の外崎先生や保護者の方々、仲間の理解と協力のお陰でなんとか少ない時間を確保することが出来ましたが、その時間を無駄にしないよう、練習では課題を明確にし、それを達成できるよう気持ちを集中させました。西関東大会で代表推薦をいただいてからは、代表としての自覚を持ち練習に励みました。全国大会という貴重な舞台を後輩3人と一緒に経験できたことは先輩として残せた贈り物であり、バトンだった気がします。どんな困難も諦めずに、努力していくことの大切さを新しい代にも伝えていってみたいです。最後に、大会を開催するにあたり、ご尽力いただいたすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



志木市立志木中学校 齋藤 正子

去る3月19日(土)、山形県で行われた第45回全日本アンサンブルコンテストに打楽器六重奏で参加をさせていただきました。本番2日前の東北での地震の影響で、新幹線で行くはずが突然の不通宣告、バスの手配や時間の変更等多くの変更を余儀なくされての出発になりました。どのような状況になっても行かせていただける有り難さを感じていた私たちは、「できる限りの演奏をしてこようね。」と、部員全員で山形に行けるうれしさの方が増していたように思います。なぜなら昨年度(宮崎県)は、全員では参加出来なかった思いが2年生にはあったからだと思います。部員数の少ない本校。「今年は、全員で行ける。」と、遠征説明会後嬉しそうにしていた演奏メンバーの笑顔が印象的でした。当日は、会場から1時間離れた場所からの移動でしたが、本番が午後であったこともあり、時間に余裕をもって取り組むことが出来ました。1分30秒での入れ替えは、打楽器アンサンブルに取ってはかなり大変でしたが、部員全員参加できたことで練習ができ、どうにかクリアできました。(部員がいないと、他の方の力をお借りしないとできないので。)



演奏者は、「笑いたくなるくらい楽しかった。」と演奏後、話していました。少人数だから意思の疎通が確実にできる。アンサンブルをととして、どのような編成であれ個々の力を最大限発揮させ、互いを思いやることで、まとまりのある演奏に繋がる。この経験を生かしつつ大編成に移行できればとおもいます。このような貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

県立伊奈学園総合高等学校 臼田 もも花

私が全日本アンサンブルコンテストに出場し最も学んだことは、結果ではなく経過が大切であるということです。

出演順1番、全国大会の大きなステージに対してたったの8名。今まで感じたことの無い、圧倒的な緊張感がありました。私を含め、演奏中のメンバーの手が小刻みに震えていたことを覚えています。

結果が発表された時の悔しさは、以前の大会で感じたものとは異なりました。結果が振るわなかったことよりも、納得のいく演奏ができなかったことの方がよほど悔やまれたのです。しかしこれは、結果に固執せず音楽を磨くことに集中できていた証拠であり、自分の中で非常に大きな成長であったと感じています。アンサンブルと向き合った全国大会までの日々は、私の今後の人生に誇れるものとなりました。これからも、結果に囚われず、それまでの経過で自分が成長できたかを大切にしていきたいと思います。



星野高等学校 清水 美雅

全日本アンサンブルコンテストに出場させていただき私の印象に残っていることが2つあります。

1つ目は3月17日未明、福島県沖で大地震が発生したことです。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、1日でも早い復興がなされますことを祈っております。この大地震が起きたのが全日本アンサンブルコンテストの2日前でした。大会が実施されるかどうか私たちは不安でしたが、現地の方々の無事と大会の開催を祈り、私たちの音楽に向き合いました。新幹線が脱線して不通ということもあり、急遽予定を変更しバスで向かいました。私たちのためにいかなる事態でも最善策を考えてくださる先生方の姿を見て、最後まで諦めないことの大切さを学びました。

埼玉大学吹奏楽部 浅野 璃子

こんにちは!埼玉大学吹奏楽部です。私達は同学年4人でサックス四重奏を組み、西関東代表としてやまぎん県民ホールで行われた全国アンサンブルコンテストに出場させて頂きました。

気心の知れた仲間で結成したチームであるからこそ生まれる団結力や信頼関係を生かしながら、一曲に向き合う時間はとても充実したものであり、間違いなく全員にとっての宝物となりました。同時に、当部におけるアンサンブルコンテスト全国大会出場は約20年ぶりであり、メンバー同大変喜ばしく思っています。

今年度のアンサンブルコンテストはコロナの影響によるイレギュラーな事態が多くあり、特に大学の課外活動が禁止されてしまった時期には不安や焦りを感じざるを得ませんでした。このような中でも開催と安全の確保に多大

2つ目は演奏後に頂戴した沢山の拍手と演奏を聴いてくださった方々の笑顔です。無観客での大会や演奏会が多かったため、沢山のお客様に拍手を頂戴し、胸が熱くなりました。ライブ配信では特に遠隔地の皆様に演奏をお届けできることも嬉しいことではあるのですが、会場で私たちの音楽を五感で感じてもらう拍手を頂戴することの有難さを改めて感じました。アンサンブルチームが始動してからの5ヶ月間、辛いこともありましたがそれ以上にかけがえのない仲間と音楽を創れたことに幸せを感じています。

今後は星野ウインドの良さに磨きをかけ、新しい強みを生み出し、吹奏楽コンクールDの部金賞受賞、Aの部は全国大会出場を目標とし、チーム力で勝つ「熱い」シーズンにしたいと思います。

なるご尽力を頂いた吹奏楽連盟の方々をはじめとして、お忙しい中レッスンして下さいったコーチの先生や顧問の先生、メンバーが演奏に専念できる環境を整えて下さった部活の先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

大変なことも多くありましたが、改めて吹奏楽の楽しさ、そして吹奏楽ができること自体の幸せを強く感じた貴重な時間であったと思っています。また、全国という憧れの舞台でこのメンバーのアンサンブルを純粋に楽しめたこと、響きの美しいホールにその音を響かせられたことが何よりも嬉しかったです。

最後に、来年度こそは表彰式の開催や他団体の演奏を聴くことが叶いますよう祈りつつ、今回得た力をさらに磨いていけるように一人一人精進し続けていきたいと思います。応援本当にありがとうございました。



ソールリジェール吹奏楽団 越後 愛

3/19(土)山形県で行われた第45回全日本アンサンブルコンテストにクラリネット四重奏で出場致しました。2年前、私たちは新型コロナ感染拡大の影響で開催中止になってしまった第43回全日本アンサンブルコンテスト(福井)に出場予定でした。中止が決まり、やりきれない気持ちになったのを今でも憶えています。今年はその時と同じメンバーが集まり、別の曲で気持ち新たにアンコンに挑みました。練習開始時から「全国金賞」を目標に練習を重ね、念願の全国大会出場が決定!そして、全国大会の数日前、大きな地震が起こります。開催決定したものの、予定していた交通手段が断たれ直前に大幅な予定変更となりました。一時は「また辿り着けないのかも…」という思いもよぎりましたが、無事に山形に到着し、憧れの舞台に立ち、この4人で楽しく演奏できたことが何よりの思い出です。

川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団 伊藤 翼

はじめに全日本大会直前に発生しました地震により被害にあわれた皆様にお見舞いを申し上げます。そのような最中、無事に大会を開催・運営くださいました関係者の皆様に深く感謝いたします。

アンサンブルリベルテしてはコロナ禍で中止となりました2018年度から3年続けて、11回目の全日本大会出場となりました。大会開催の3日前に発生した地震の影響により、当初予定していた練習場所が臨時休館となり、急遽出発の前日に練習場所を新たに探すことになりました。打楽器一式と金管楽器6名で練習できるスペースの確保は直前では非常に困難でした。しかしながら、日頃よりご支援いただいている皆様、埼玉大学OBが所属する米沢吹奏楽愛好会の皆様のご協力を得まして、出発当日の朝、なんとか練習場所を確保することができました。

本番会場のやまぎんホールは2020年に開館した素晴らしいホールで、ステージ上での良い響きを感じながら、片岡寛晶先生の委嘱作品「宵の奏楽に飮して・・・」を演奏できる喜びを噛みしめ、練習の成果を発揮することができました。吹奏楽コンクールと並行して夏ごろから長い時間をかけ練習し、メンバーで意見を出し合い、想い入れの強い曲となりました。

コロナ禍でHP掲載となった審査結果は、リベルテとして8年ぶり3回目の「金賞」でした。

管打楽器の編成でアンサンブルコンテストに挑み始めて5年目にして念願の金賞を受賞することができ、今までの努力が報われ大変嬉しく思っております。これからも学生に大人になっても楽器を続けていきたいと思ってもらえるように、また、良い演奏、楽しい演奏ができるように、さらに努力を重ねて参ります。

令和 3 年度
優秀指揮者表彰

第21回 東日本学校吹奏楽大会

小学校	大谷 春花	さいたま市立大宮南小学校※
	友田 紀子	越谷市立西方小学校
中学校	鈴木 直樹	志木市立志木第二中学校※
	星野 清悟	川口市立芝中学校
	太田 陽介	吉川市立南中学校
	首藤 健一	さいたま市立泰平中学校
高等学校	鳥越 崇裕	立教新座高等学校
	坂本 尚也	県立滑川総合高等学校
※ 三年連続出場校		

第69回 全日本吹奏楽コンクール

中学校	落合 誠	飯能市立加治中学校
	田中 秀和	越谷市立大相模中学校
	外崎 三吉	朝霞市立朝霞第一中学校
高等学校	奥 章	埼玉栄高等学校
	宇畑 知樹	県立伊奈学園総合高等学校
	織戸 祥子	春日部共栄高等学校
	佐藤 正人	川越奏和奏友会吹奏楽団
一般	福本 信太郎	川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団

第40回 全日本小学校バンドフェスティバル

小学校	杉本 光子	さいたま市立蓮沼小学校
	佐藤 蓉子	さいたま市立上里小学校

第34回 全日本マーチングコンテスト

高等学校	宇畑 知樹	県立伊奈学園総合高等学校
------	-------	--------------

**Saitama Prefecture of
All Japan Band Association Bulletin**